

2024 年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究代表者所属】：東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科

【研究代表者氏名】：細田貴明

【研究代表者氏名フリガナ】：ホソダタカアキ

【研究代表者職】：教授

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】

・なし

【国外研究分担者（所属、氏名、職）】

・なし

【研究課題名】：教員の授業設計能力の向上に寄与する行動モデルの開発

【研究実績の概要（800～1000 字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

・本研究は、専門職大学院におけるエンロールメント・マネジメント（Enrollment Management : EM）の実践方法の確立とその社会実装を目的とするものである。近年、東京都立産業技術大学院大学（以下、本学）では Institutional Research (IR) 活動が活発化し、講義評価や通学エリア情報などを可視化する取り組みが行われてきた。本法人の第四期中期計画では、きめ細やかな学生支援を実現する手法として EM の活用が明記されており、本研究はその実装基盤を築くことを目指している。

EM は、米国において 1970 年代から導入され、学生を「志願—合格—入学—在学—卒業—同窓」まで一貫して支援する考え方として発展してきた。特にマーケティング理論を教育に応用し、学生を顧客として捉えることで大学運営の効率化と学生満足度の向上を実現している。一方、日本では 1990 年代から用語が普及したものの、研究や実践は限定的であり、特に専門職大学院に特化した EM モデルの構築はなされていない。そこで本研究では、(1) 国内大学・大学院の EM 実施状況の調査、(2) 専門職大学院における EM と従来型 EM の比較、(3) 専門職大学院における新たな EM モデルの開発と社会実装、の三段階を計画的に実施している。2023 年度には、高度専門職人材教育研究センターの活動の一環として、本学特有の EM のあり方の検討を進め、「志願」および「同窓」フェーズに着目した初期モデルの開発に着手した。2024 年度は、これまでの IR 分析やシンポジウム等での知見をもとに、他大学との比較調査と仮説モデルの精緻化に取り組む。これまでの実績として、PBL 教育やブレンディッド型教授法の効果検証など、専門職大学院における学修モデルに関する研究成果を蓄積しており、これらは EM モデルの構築に必要な基礎データとして活用している。さらに、国際会議での発表を通じた成果の発信や、分析ツールの導入による定量的評価も進めており、今後は本学での実装にとどまらず、AiiT-EM モデルとしての標準化・展開を視野に入れている。本研究の成果は、本学の学生支援体制の強化、IR 活動の高度化、中長期的な入学者支援と教育の質向上に資するものであり、専門職大学院における EM の先進事例として社会的にも高い波及効果を持つと期待される。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

・ Investigation of Latent Effects and Changes of Adult Learners at Colleges or Graduate Schools

Yuya Yokoyama, Takaaki Hosoda, Morihiko Ikemizu and Tokuro Matsuo

16th International Congress on Advanced Applied Informatics IIAI AAI 2024-Winter Congress 2024

年 12 月

・池水守彦・横山友也・細田貴明・松尾徳朗 (2025) 『社会人学生の大学・大学院修了時における潜在的効果と変化』, 卷 18, 136–140 頁.

・細田貴明・岡崎浩二・松尾徳朗 (2025) 『PBL 評価指標の確立に向けたアンケート調査の実施: 第二報』, 卷 18, 173–178 頁.

【論文発表又は著書発行 (発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入)】

・なし

【作品等】

・なし

【科学研究費助成事業への応募状況、採択状況】

・なし

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

・なし

【受賞等】

・なし

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]

・なし

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

・なし

(工業所有権の名称、発明者、権利者、工業所有権の種類・番号、出願年月日、取得年月日)

・なし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名、所属、金額 (円))

・なし